



東淀川区キャラクター
「こぶしの
みどりちゃん」

令和元年度第2回 東淀川区BCP学びの場 実施報告書

令和元年12月

東淀川区役所地域課

目次

実施概要	1
内容	2
東淀川区役所のBCP策定支援メニューについて	2
令和元年度第1回東淀川区BCP学びの場について	3
グループディスカッション①	4
事例紹介	7
グループディスカッション②	11
まとめ	12
別途資料	
令和元年度第2回東淀川区BCP学びの場アンケート 単純集計結果	

実施概要

1. 名 称：令和元年度第2回東淀川区BCP学びの場
2. 日 時：令和元年12月6日（金）15：00～17：10
3. 会 場：東淀川区役所3階 301・302会議室
4. コーディネーター：城下英行氏（関西大学社会安全学部准教授）
5. 主 催：東淀川区役所地域課（担当：天野、森川）
6. 参 加 者 数：6人（5団体）
7. プログラム

15：00 開催挨拶
15：05 東淀川区役所のBCP策定支援メニューについて
15：10 令和元年度第1回東淀川区BCP学びの場について
15：20 グループディスカッション①
15：50 事例紹介（久保孝ペイント株式会社 篠原功氏）
16：20 グループディスカッション②
16：50 まとめ
17：00 区役所からのお知らせ

東淀川区役所のBCP策定支援メニューについて

東淀川区役所では、4つのBCP策定支援メニューがある。地域課が下記の「東淀川区役所BCP策定支援メニューチラシ」を参考に説明をした。

災害時の事業継続を考えませんか？BCPを作成しましょう！

災害時における企業の事業継続計画が策定されていない場合は、復興が遅れ、賑わいが長期間にわたり失われるため、東淀川区はBCPの策定に取り組んでいます。

下記のBCP策定支援メニューは、すべて東淀川区役所ホームページからダウンロードすることができます。ぜひご利用ください。

東淀川区役所 BCP

※BCP（事業継続計画）とは、企業などが災害や事故で被害を受けても重要業務を継続・復旧させることです。
BCM（事業継続マネジメント）とは、その管理、運営です。東淀川区では、災害時だけでなく日常から様々な面で連携を図ることをめざしています。

東淀川区役所のBCP策定支援メニュー

ひな形

BCPを策定する際の見本を用意しています。
Word形式でダウンロードし、ご利用ください。



マニュアル

ひな形の活用の流れを書いたBCP策定マニュアルです。
ひな形と併せてご利用ください。



BCP運営会議・学びの場

平成28年度から30年度まで、計5回の会議・講座を行いました。
それらをまとめた報告書やアンケート集計結果も掲載しています。

先進事例紹介

区内の企業・事業所の中で、BCPの取り組みを行っている企業にインタビューを行いました。



東淀川区役所はBCPの策定・見直しをする企業・事業所様を応援しています！

上記のメニュー以外にもBCPに関することを遠慮なくお問い合わせください。

問い合わせ

東淀川区役所地域課

☎ 06-4809-9509

✉ tm0011@city.osaka.lg.jp

令和元年度第1回東淀川区BCP学びの場について

城下氏により「令和元年度第1回東淀川区BCP学びの場」（令和元年8月開催）のふり返りを行った（「令和元年度第1回東淀川区BCP学びの場 実施報告書」を参照）。

「令和元年度第1回東淀川区BCP学びの場」では、BCPをはじめとするマニュアルを役立てるにはどうすればいいのか、グループで話し合った。まず自分たちの身の回りにあるマニュアルを思いっただけ書き出し、次にそれを「よく使う」、「どちらともいえない」、「全く使わない」ものに分類した。

A マニュアルの分類WS		
よく使う	どちらともいえない	全く使わない
<input checked="" type="checkbox"/> 業務マニュアル <input type="checkbox"/> ケアプラン作成 <input type="checkbox"/> 薬剤 <input type="checkbox"/> 苦情対応 <input type="checkbox"/> 感染対策 <input type="checkbox"/> 身体拘束 <input checked="" type="checkbox"/> 地域防災 <input type="checkbox"/> 消毒 <input type="checkbox"/> 個人情報 <input type="checkbox"/> 認知症ケアマニュアル <input type="checkbox"/> 緊急時対応マニュアル	<input type="checkbox"/> 事故対応時のマニュアル <input type="checkbox"/> 無線機 <input type="checkbox"/> セキュリティーキー <input type="checkbox"/> 車 <input type="checkbox"/> 虐待防止 <input type="checkbox"/> 自動火災報知機	<input type="checkbox"/> オープントースター <input type="checkbox"/> エアコン <input type="checkbox"/> テレビ <input type="checkbox"/> 携帯電話 <input type="checkbox"/> DVDプレーヤー <input type="checkbox"/> プリンター・FAX <input type="checkbox"/> 電子レンジ <input type="checkbox"/> パソコン <input type="checkbox"/> スピーカー
↓	↓	↓
業務に関すること、改訂されるもの	業務に関すること、経験でカバーできる、分厚い	家電、知らなくても困らない

B マニュアルの分類WS		
よく使う	どちらともいえない	全く使わない
<input type="checkbox"/> J: COMの取扱説明書 <input type="checkbox"/> 料理のレシピ	<input type="checkbox"/> 事故防止マニュアル <input type="checkbox"/> 服薬 <input type="checkbox"/> 感染防止マニュアル <input type="checkbox"/> 感染症予防 <input type="checkbox"/> 食中毒防止 <input type="checkbox"/> 接客 <input type="checkbox"/> ISO	<input type="checkbox"/> パソコン <input type="checkbox"/> AED <input type="checkbox"/> スマートフォン <input type="checkbox"/> 生命保険 <input type="checkbox"/> カギ <input type="checkbox"/> 時計 <input type="checkbox"/> オープンレンジ <input type="checkbox"/> テレビ <input type="checkbox"/> ガス釜 <input type="checkbox"/> 自動車 <input type="checkbox"/> 救急搬送 <input type="checkbox"/> 応急処置 <input checked="" type="checkbox"/> 防災マニュアル <input checked="" type="checkbox"/> 業務マニュアル
↓	↓	↓
頻度が高い	業務	ものの操作

今回、特徴的だったのは、両グループとも、相手がモノではなくヒトであること、また、一人で扱うものではなく、複数で扱うものを「よく使う」マニュアルと分類していたにもかかわらず、Aグループでは、「業務マニュアル」、「地域防災」を「よく使う」と挙げ、Bグループは、「防災マニュアル」、「業務マニュアル」を「全く使わない」と挙げ、正反対の結果が出たことである。

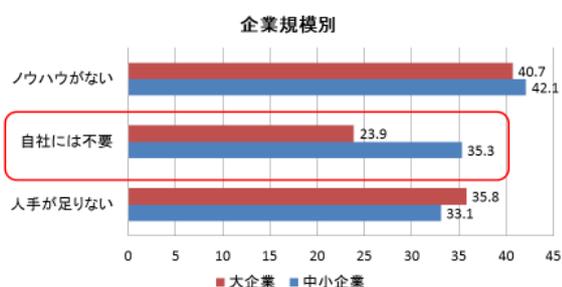
「業務マニュアル」や「防災マニュアル」の分類が全く違う結果になったのは、参加者自身の置かれている「立場」が違うことが挙げられる。つまり、マニュアルを作成しても、立場によって「よく使う」ことも「全く使わない」こともあるということである。それは、マニュアルが違うというよりも、「マニュアルの見え方」が違うからである。今回、マニュアルは時として、「違うもの」として捉えられることがあることが分かった。

最後に、マニュアルを役立てるには、文言を理解することではなく、背景にある目的や理念を共有することが重要であると述べた。どうしてこのマニュアルがあるのか、つまり、どのようにしてこのマニュアルができて、どのような目的があるのかをマニュアルに深く関わる人でなくても理解することが必要である。

BCPをBCPたらしめるのは、印刷物ではなく、目的や理念の共有である。マニュアルを作成すれば終了ではなく、マニュアルの目的や理念（＝見え方）を共有することが重要である。どうしてもBCPは印刷物をイメージしてしまうので、印刷物だけ渡されてもこれだけものを読まないといけなくかと思ってしまうし、作成した側も誰も使ってくれないと感じてしまう。印刷物を作ることが本来の目的ではない。むしろ、BCPの基盤である目的や理念を共有するという、「運動」が重要である。

グループディスカッション①

「自社には不要」という意識は 特に中小企業に多い



株式会社帝国データバンク(TDB)「BCP(事業継続計画)」についての企業の意識調査 BCP未策定の理由(複数回答) 2011年4月より作成

現在、日本企業のBCPの策定はなかなか進んでいないのが現状である。左図を見ても、未策定の一番の理由に「ノウハウがない」が挙げられている。

今回、「BCP策定は難しい」をテーマに、グループで話し合った。

以下のように、グループディスカッションを行った。

「BCP策定は難しい」と感じるのはなぜでしょうか？

(個人作業)

思いっただけ理由を挙げてください

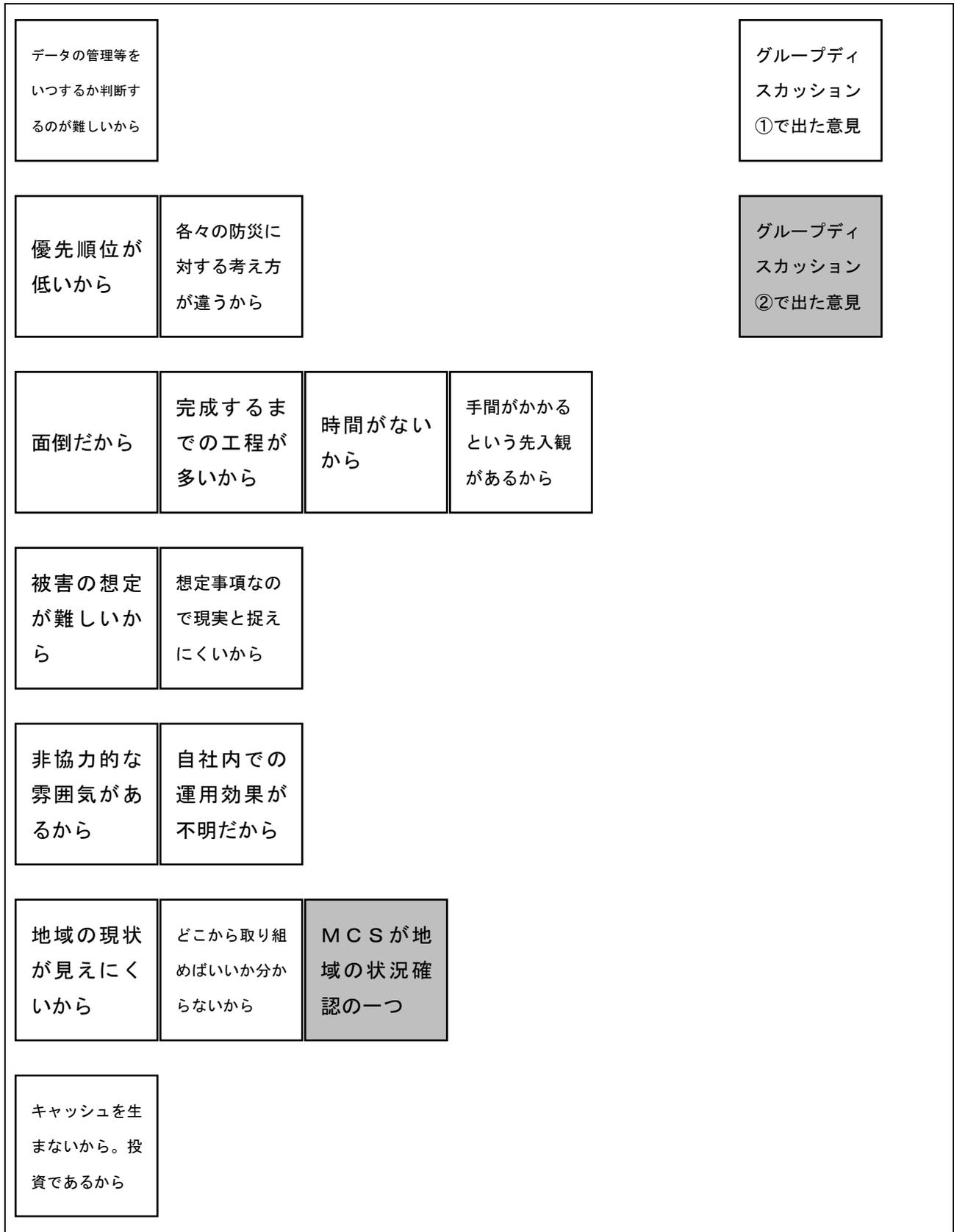
黄色の付箋1枚に理由を一つ書いてください

個人作業のあと、自分の意見をグループで発表した(P. 5、6 「模造紙(イメージ図)」を参照)。意見が出たあと、各グループで出した意見を発表してもらった。



●模造紙（イメージ図）

Aグループ



Bグループ

あるかどうか からないことの ために作るから	想定する混 乱が多様す ぎるから	それぞれに対応し たマニュアル作り は難しいから	全体で共有でき るものを作るの は難しいから	普段の地域活動が BCPや防災活動 の活用できる	グループディ スカッション ①で出た意見
一人では大 変だから	1人だけの考 えで作ること が難しいから	うまくいかなか ったときに責められ るのがいやだから	同業他社のネット ワークを活用して 役割分担をする	グループディ スカッション ②で出た意見	
時間が足り ないから					
策定の仕方 が分からな いから	複雑に考え すぎている から	完成品を作 ろうとして いるから			
周知をどう していくか 悩むから					
いつから始 めたらいい か悩むから					
継続できる か不安だか ら				普段から地 域とつなが りを持つ	

事例紹介

篠原功氏（久保孝ペイント株式会社）

「グループディスカッション①」を受け、篠原功氏から久保孝ペイント株式会社におけるBCP策定の事例紹介を行った。

今回、篠原氏から、久保孝ペイント株式会社の沿革、現在の拠点、自社の製品である塗料の役割、用途、成分、製造工程を話したあと、なぜBCPを策定するに至ったのかを話した。

その後、城下氏から篠原氏へ質問を行った。



(1) BCP活動を始めるまで

塗料原料の中には燃えやすい物もあり、転倒防止や落下防止等の防災活動は以前から力を入れて行っているが、BCP活動はしていなかった。

BCP活動は平成30年から開始。同年の台風の影響で停電になり、活動の重要性が高まっている。

(2) 久保孝ペイント株式会社のBCP活動

①小型発電機の導入

平成30年の台風による停電を経験したことにより導入。幸い停電は2日で済んだが、もし3日、4日と長引いていたら、取引先に迷惑をかけていたと思われる。

②安否確認システム

各個人の携帯電話・スマートフォンを使用。各自が登録した地域に災害が発生した場合、自動的に安否を確認するメールが送信される。各自が返信すると本人や家族の安否確認ができるようになっている。このことで、人員確保の検討もできる。

③備蓄品を準備（継続中）

保管期間が5年ある水や食料、毛布など、備蓄品を順次購入するようにしている。

④事業継続計画書の検討（事業継続計画書（ひな形）を候補に）

・事業継続計画書の主な特徴

東淀川区役所の「事業継続計画書（ひな形）」のP. 4「5. 事前対策」の《備蓄品編》では、備蓄品の分類を「実施済」と「実施予定」で分類するようになっているが、それではヘルメットなど日常的に使用しているものもBCPのための備蓄品として「実施済」に入れないといけなくなるため、分かりにくいと感じ、「実施済」、「実施予定」から「日常使用品」、「災害用準備品」に書式を変更した。

5.-④事業継続計画書について 事前対策-《備蓄品編》の書式変更

《備蓄品編》	実施済	実施予定	
		実施内容	購入時期・回数
食糧など	○	○	○
医薬品など	○	○	○
救急セット	○	○	○
救急資器材	○	○	○
防災資器材	○	○	○
保護用具	○	○	○
その他	○	○	○

[旧書式]

《備蓄品編》	日常使用品	災害用準備品	左記品の補充・確認頻度
食糧など	○	○	○
医薬品など	○	○	○
救急セット	○	○	○
救急資器材	○	○	○
防災資器材	○	○	○
保護用具	○	○	○
その他	○	○	○

[新書式]

区分を「実施済」と「実施予定」から
「日常使用品」と「災害用準備品」に変更

(3) BCPを策定したときに感じたこと・提案

・「事業継続計画（BCP）を策定するためのマニュアル」の作成

「事業継続計画書（ひな形）」を活用し、BCPを策定する中で、これが正解か不正解か分からないなど、疑問が出てくる。疑問が生じた際、その都度、「事業継続計画書（ひな形）」を用いたBCP策定マニュアルを参考にしたが、疑問に答える内容になっていないと感じた。策定時は、このようなささいな疑問で手が止まってしまう。項目ごとに、記載例や補足説明、ポイントが書かれたものであれば、これからBCPを策定する人にも役立つと考える。

(4) BCPを策定するうえで参考になったこと

BCPセミナーに行き、多くの人から話を聞くことが、BCPを進めていく大きな一歩になる

セミナーなどに参加し、事例や工夫、困っていることを聞く、相談することが大切だと聞いた。例えば、平成30年の「東淀川区BCP学びの場」に参加した際は、区役所職員から備蓄品についてアドバイスをもらった。また、別のセミナーで出会った区役所職員からいっしょにBCPを作らないかと誘われ、策定時、城下准教授からアドバイスをもらったことで、BCPの理解を深めることができ、活動を進める手助けになった。また、その結果、今この場で発表をさせてもらっている。

(5) 城下氏からの質問・感想



Q1 防災活動とBCP活動は似ている。どう違うのか、どこが同じなのか見極めるのが難しい。久保孝ペイント株式会社では、防災活動とBCP活動、それぞれどのような活動として考えているのか？

A 防災活動は、災害発生時、被害をどうやって最小限に抑えるのかを考えている。一方、BCP活動は、災害発生後、いかに早く業務を復旧できるかを考えている。ただし、社内では、BCP活動として捉えている人もいると思う。

感想 ①ここ最近、「減災」という言葉がよく使われているが、「減災」の一部の活動がBCPの活動ではないかと感じた。

②防災活動とBCP活動の区別がついていない社員もいるとの話が出たが、この部分が防災、この部分がBCPといったように厳密に分ける必要はないと考える。

Q 2 これまで進めてきたBCP活動の中で、特に重要だと感じる活動は？（これからBCP活動を始める方にお勧めする活動を含む）

A 先ほどの説明と重なるところがあるが、BCPに関するセミナー等に行き、いろいろな人たちから話を聞くこと。また、グループディスカッションの中でも、「協力が得にくい」という意見が出ていたが、おそらく同じような状況の方はいると考える。過去の事例（自然災害等）から見えてくる課題を優先させれば、協力も得られるのではないかと思う。

感想 課題が見えるたびに、その課題に向き合う、そのような進め方はとてもよいと考える。

Q 3 今回、BCP活動を進める中で、「事業継続計画書（ひな形）」のP. 4「5. 事前対策」の《備蓄品編》の書式を「実施済」、「実施予定」から「日常使用品」、「災害用準備品」に変更したとあったが、変更したことによって、BCP活動を進めるうえで役に立った、効果があったことは？

A BCPを一から作るのではなく、すでにできている部分があることが分かった。そのことで気分が楽になった。

感想 ①「実施済」、「実施予定」というのは、つまり、「BCPのために行ったこと」と「BCPのために行わなければならないこと」で分類するということであり、これだとBCPを策定するのに非常に負担がかかってしまう。

②篠原氏の案のように、「日常使用品」と「災害用準備品」で分類すれば、すでにあるものを活用すればいいと分かるし、今後用意しないといけないものが何なのかが分かるようになる。

Q 4 BCP活動を進めるうえで、一番大変だったことは？また、その大変だったことをどのように克服したのか？

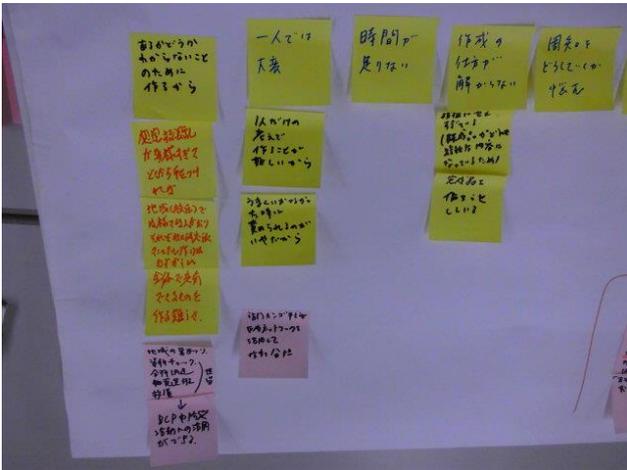
A BCP担当になったときは、BCPをよく知らなかった。一から勉強や情報収集をしなければならなかった。セミナーなどに赴き、様々な方のアドバイスをもらうことで克服していった。

グループディスカッション②

「事例紹介」を受けて、以下のようなグループディスカッションを行った。

「BCPのためではないが、結果的にBCPにつながっている活動」を付せんに書き出して下さい
それらのうち「BCPは難しいと感じる理由」に対して、その難しいと感じる原因を変えることに役に立ちそうなものがあれば、その付せんの近くに貼り付けてください

意見が出たあと、各グループで出した意見を発表してもらった。(P. 5、6 「模造紙 (イメージ図)」を参照)



Aグループ

①連絡網の整備

連絡網は日頃から整備している。

②MCSの活用

MCS (※1) をこぶしネット (※2) で整備している。これを使って病院、介護施設、薬局などの立場を超えた連携ができる。

Bグループ

①同業他社のネットワークの活用

区内には同業他社のネットワークがある。それを活用すれば、災害時の役割分担ができるのではないかと。BCPも一人で考える必要はない。

②普段の地域防災活動の活用

地域防災活動の中で、機材を調達する人、食料を調達する人、救護にあたる人など役割分担をしている。災害時に、わざわざ防災活動、BCP活動と分けて考える必要がない。

③普段からの交流の活用

防災活動もBCP活動もうまくいかない場合がある。例えば、地域防災活動なら自治会に入っているかいないかなどの問題がある。普段から自治会に入っている、入っていないにかかわらず交流をしていけば、災害時、災害弱者などの情報が入るので安否確認をスムーズにいくことができる。

※1 メディカルケアステーションの略。病院、クリニック、薬局、介護施設などで働く医療介護者の多職種連携や患者・家族とのコミュニケーションツールとして、全国の医療介護の現場で利用されている、医療介護専用SNS。

※2 「東淀川区の在宅医療連携を考える会」の別称。東淀川区の高齢者や障がい者の在宅生活を支えるために、地域での在宅医療を通じて医療・介護・行政の連携のあり方を考え、東淀川区の特性を生かした地域包括ケアの推進を目的とする会。令和元年12月現在、実行委員会を月1回開催し、様々な課題を抽出しその解決を図っている他、多職種の研修会や学習会を開催している。
<https://kobushinet.jp/index.html>

まとめ

「BCP活動」という言葉によって、BCPは動きのあるものと感じる

本日の篠原氏の事例紹介の中で、「防災活動」、「BCP活動」という話が出た。BCPに「活動」という文字はあまり使わないが、「活動」という言葉を使うことによって、具体的に何かをやっているような、動きのあるものになった。BCP策定を進めるうえで、いかに「BCP活動」にしてくのが重要である。

BCP活動は、災害発生後に行うものではない。通常業務の中で、BCPにつながりそうなことを意識することが重要である。そうすれば、BCPが「いつ起こるか分からないもののために作るもの」ではなくなるのではないか。

BCPは、「計画」であるため、普段の業務とは遠い存在に聞こえてしまう。「BCP活動」という言葉にすると、自分たちの身近なものと感じることができる。

